

# 指定管理者制度導入施設 モニタリングシート

評価年度

令和元年度

## 1 基本情報

公の施設名	相模原市立津久井障害者地域活動支援センター
指定管理者名	特定非営利活動法人竹の子作業所
指定期間	平成31年4月1日から令和6年3月31日まで(5年間)
施設設置条例	相模原市立津久井障害者地域活動支援センター条例
施設の設置目的	障害者が地域において自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、創作的活動又は生産活動の機会を提供し、社会との交流の促進を図るとともに、日常生活に必要な便宜の供与を行い、もって障害者の福祉の増進に寄与する。(条例第2条) 地域生活支援事業の地域活動支援センター型を実施
施設概要	開館時間:午前9時30分から午後3時30分まで 休館日:土曜日、日曜日、祝祭日及び12月29日から翌年の1月3日まで 年間開所日数:239日 敷地面積:416.89m <sup>2</sup> 延床面積:229.67m <sup>2</sup> 主な施設:作業室、事務室、食堂兼集会室、更衣室、トイレ
施設所管課	健康福祉局地域包括ケア推進部高齢・障害者福祉課

## 2 管理実績

項目(単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用者数合計(人)	3,697	3,761	3,723				
収入総額(円)	16,803,317	16,571,949	18,638,732				
支出総額(円)	16,803,317	16,571,949	18,638,732				

令和元年度から、施設修繕費を指定管理料に含めたことなどから収支が増額しているもの。

## 3 成果指標の達成度

評価(5評価)	評価理由・委員会意見
<b>B</b>	令和元年度から設置した新たな目標値を達成することができなかった。近年、新たな利用者がいないとのことであるので、津久井地域在住の方に選んでいただけるような魅力ある施設となるよう期待する。

### 指標1

指標名(単位)	開所日1日当たりの平均利用者数 単位:人
指標式と指標の説明	施設を利用し日中活動や地域との交流事業に参加することにより、障害者の地域における自立した日常生活や社会生活の促進が図られるため、1日当たりの平均利用者数(年間延利用者数÷開所日数)を成果指標とする。

項目(単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値(単位)	14.10	14.15	15.50	15.50	15.50	15.50	15.50
実績値(単位)	15.00	15.50	15.05				
達成度(%)	106.4%	109.5%	97.1%				

#### 4 事業の実施状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見		
<b>A</b>	様々な自主事業を行っていることは評価できるが、今後、新たな自主事業の種類を増やすために利用者からアンケートを取るの工夫をしてはどうか。例えば、日帰り研修旅行については、利用者ごとに、行きたい場所は異なると思われるので、写真などを用いて丁寧に選択肢を用意することで、希望先ごとに実施するというやり方もあるのではないかと。		
<b>市が指定する事業</b>			
主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
相談支援	通年	利用者等に係る状況の把握(毎日)、情報提供及び助言並びに相談指導(必要に応じて随時実施)	
連絡調整	通年	利用者等に対して指定障害福祉サービス事業者及び医療機関等と連絡調整(相談支援事業所とモニタリング実施時期に連携を取っている)	
地域における連携	通年	地域における障害福祉に関する関係者による連携(様々な地域の情報等を共有するために社協や市保健センターと連携している)	
センターの機能強化業務	通年	サービス管理責任者研修修了者による個別支援計画作成業務等(毎年4月作成)	
生産活動を提供する業務	通年	就労支援を目的とした企業の請負作業及び自主製品製作販売の活動(プラスチック製品の分解やシール貼りなどの作業を提供し工賃を支払っている)	
地域交流に係る業務	通年	地域での各種行事に参加し、障害者及び障害児の保護者又は介護者との地域交流(ほのぼの運動会等に参加)	
地域活動支援	通年	施設開放(竹の子祭)、ボランティア(習字講師など)・実習生(津久井養護学校等)の受け入れ等を行う	
センターの在り方の検討	通年	今後のセンターの在り方について、センターの抱える課題を鑑みながら、市と協議を行う(家族会からの意見等について市と協議した)	
利用の促進に関する業務	通年	施設及び事業の広報・PR、利用者サービスの向上等に関する業務(竹の子祭について、ポスターやポスティングを実施)	

#### 自主事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
野外活動/野外実習	4月・5月・9月	お花見会/あじさい見学/日帰り研修旅行(利用者・職員・ボランティア)	
健康支援	3月～12月	体育館レクリエーション(元気にパワーアップ体操)	
調理実習	通年	利用者の調理指導(利用者・指導者)月1回/269名	
給食サービス	通年	利用者の給食の提供(給食ボランティア)月2回/589名	
習字教室	通年	利用者の書き方指導(習字ボランティア)月1回/180名	

#### 5 利用者の満足度

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
<b>A</b>	アンケート調査では、「不満がある」との回答は無く、ほとんどの利用者が「利用して良かった」と回答されたことから目標値を達成した。今後も引き続き、利用者やその家族などのニーズをしっかりと把握しつつ、個々の利用者に向けた支援等を期待する。

#### 利用者満足度調査

調査手法/サンプル数	利用者14名に対して9月にアンケートを実施
目標値の基準	「施設を利用して良かったと思いますか」との問いに対する5段階評価のうち「大変良かったと思う」、「まあまあ良かったと思う」と回答した方の割合の合計

項目（単位）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値（％）	91.1	91.7	92.3				
実績値（％）	80.0	85.0	92.3				
達成度（％）	87.8%	92.7%	100.0%				

その他の取組		
取組事項	時期	取組内容
利用者、来所者意見箱	通年	センターに直接、意見や要望等を伝えることができない利用者のために常時意見箱を設置した。
支援者の資質の向上	通年	職員は、施設利用者及び家族との連携を図り、より良い支援を行うため、各種研修に参加した。

## 6 施設の経営状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
<b>S</b>	経営は、当該指定管理事業に依存している状況であるが、年間支出の5か月分の預金を保有し借入金はない。資金流動性は良好であり、固定資産投資は少なく自己資本比率は極めて高い。経営上特段の課題はない。

施設の収支概要		直近3年間について記載		
		（千円）		
項目		平成29年度	平成30年度	令和元年度
収入（a）		15,727	15,672	16,974
	指定管理料	14,557	14,619	16,005
	利用料金収入			
	利用者生産活動収入	1,170	1,053	969
支出（b）		15,904	14,907	16,430
	人件費	11,662	10,885	12,082
	利用者生産活動給与	1,170	1,053	969
	上記以外	3,072	2,969	3,379
本体事業収支【(a)-(b)】(c)		-177	765	544
自主事業収入（d）				0
自主事業支出（e）				0
自主事業収支【(d)-(e)】(f)		0	0	0
全体収支【(c)+(f)】		-177	765	544
備考	平成29年度は、過去からの繰越金により、補填			

団体の財務状況	団体本体の経営状況について特段の問題はない。
---------	------------------------

## 7 管理業務の履行状況

検査方法	施設所管課職員による現地確認及び指定管理者へのヒアリング
実施時期	令和2年8月18日（火）

検査項目	確認結果	備考
管理業務	適正に実施	
危機管理	適正に実施	
人員配置・地元活用	適正に実施	
現金管理	適正に実施	
会計・経理	適正に実施	
情報セキュリティ	改善済	パソコンのセキュリティ対策が一部なされていなかったが改善済み
情報公開・個人情報保護	改善済	文書管理に関する規程が作成されていなかったが改善済み
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	
加点事由	具体的内容	

## 8 指定管理者の自己評価

日中は、生産活動として、主に企業から受注を受けたプラスチック製品の分解やシール貼りなどの軽作業を行い、年間工賃として815,050円（一人当たり3,774円/月）を支給することができた。

生産活動以外に、利用者のリフレッシュや健康支援を図ることを目的に、野外活動や体育館で元気にパワーアップ体操を実施した。また、社会での適応と自立の向上を図ることを目的に調理実習の開催や習字教室を実施し、利用者からは好評であった。

利用者や家族からのニーズを把握するために利用者満足度調査、保護者アンケート、保護者会を実施した。保護者会では、親亡き後の当事者の生活について今後検討しなければならないとの意見が多かった。今後も引き続き、保護者や利用者、支援している職員の意見を取入れながら、理事会、運営委員会、保護者会において今後の施設の在り方を検討しつつ、市と協議する必要があると考える。

## 9 所管課意見

・プラスチック製品の分解作業等の生産活動以外にも野外実習や健康支援など様々な自主事業を実施しており、利用者の満足度は、高い状況がある。

・一方で、平成27年度を最後に新規の利用者がいない状況が続いていることから、特に津久井地域の方に当該施設を利用していただくために広報・PRをはじめ、今後の運営方法について検討し、市と協議すること。

## 10 選考委員会意見

### 【評価した点】

- ・利用率は、毎年安定している。
- ・満足度調査の結果も良好であるが、調査時における利用者からの意見にも積極的に対応することで、さらに満足度を上げることにつながると思う。併せて、意見に対する対応状況について、利用者やその家族に公開してはどうか。

### 【今後期待する点等】

- ・支援者の資質の向上を目的に、職員は、各種研修に参加しているが、一部の職員だけではなく、全職員が様々な研修を受講することで、はじめて施設としての質を上げることができるため、研修の受講方法について今後検討が必要である。

- ・平成27年度以降に新たな利用者を受入れていないことの危機意識を持つ必要がある。なぜ、当該施設が選ばれないのかについて、自主事業を含め、点検が必要である。

- ・生産活動に係る請負作業等について、利用者は、何年も同じ作業をされている状態がある。利用者が自立した社会生活を送るためには様々な作業を体験することが必要であることから、新たな作業を提供していただける企業を開拓していく必要があるのではないか。

- ・繰越金の額が、全体の中で割合が大きく、また、年々増額している。事業所の運営に必要な経費となっていると思うが、一定額を超えるようであれば利用者支援等のために支出するなど、検討しても良いのではないか。

- ・新型コロナウイルス感染症の対策を講じて、利用者が安心・安全に利用できるような施設運営を行うこと。

### 総合評価（自動判定）

**B**

**(65/100)**

